

赤ひげ先生奮闘記!

まだ民間医療機関がほとんどなかった昭和22年に徳島市国府町で開業し、以降、地域の医療充実に先じて取り組んできた、たまき青空病院。今回、副院長の田蒔基行先生にお話をうかがいました。

地域に必要な医療や、その仕組みを提供していくことが使命だと考えています。

PROFILE

たまき青空病院副院長(徳島県)

田蒔基行先生

たまき・もとゆき 2003年日本医科大学医学部医学科卒業。NTT東日本関東病院、順天堂大学内科学・代謝内分分泌学、徳島大学病院内分泌・代謝内科などを経て現職。専門は内分泌疾患。日本糖尿病学会研修専門医・指導医ほか。



100床の入院施設と内科・外科・泌尿器科・整形外科・心臓血管外科など複数の診療科を備えるたまき青空病院。健診センターや介護・福祉施設も充実している。

地域の声に応じた医療サービスを提供

「今、この地域にとって必要なことは何か。その仕組みをつくり、よりよい医療サービスを提供していくことが自分の使命」と、たまき青空病院副院長の田蒔基行先生は語ります。医師であるお父様の姿を見て、「頑張っただけだけの役に立ってる仕事」と実感し、医師を目指したという田蒔先生は、大学卒業後、東京の病院へ入局。糖尿病の最先端の医療現場で「修業」を積み、その経験を地元徳島で活かしたいという思いが強かったといいます。徳島に戻って以降は、「地域格差をなくしたい」という思いから、医療における課題解決の仕組みづくりに積極的に取り組んでいます。

例えば昨年、コロナ禍では、

具合が悪くてもかぜの症状がある

と医療機関での受け入れが制限されてしまい、なかなか受診

できないという事態が徳島でも起こっていました。そこで田蒔先生はすでに一部で導入し

ていたオンライン診療を活用し、コロナウイルス対策期間中

は初診でも受けつけるなど、地域の医療サポートに貢献しています。「触診で分かることも多

いため、診療は対面が基本ですが、受診がためらわれる中でも

オンラインであれば今すぐに入

院が必要なほど重症なのか、自宅の様子をみるべきか、といっ

た判断ができ、かつ院内感染リスクも抑えることができます」。

また海外からの留学生が、陰性証明書がないと国に帰れずに

困っているという話を聞き、病院の一角を使用し、無人ドライ

ブスルー方式のPCR検査を開始。現在はさらに利便性を高

め、多い日には県内の半数近くのPCR検査を同クリニック

が受けもっているといいます。その他、LINEを使用したス

ムーズな受診予約など新たなインフラづくりに注力します。

糖尿病によって生活を变えないうために

地域の医療サービス向上に尽力する田蒔先生ですが、その根底には糖尿病専門医として地域の患者さん一人ひとりと誠実に向き合う姿勢がありました。糖尿病による生活の制限をできる

だけ少なくし、今までと同じ生活を患者さんが一生涯続けられることを目指しているという先生。

「コントロールがうまくいかないと、患者さんはどうしてできないのか自己否定感を抱き、

ストレスをためてしまいがちです。しかし、数値が悪いのは

第一に体質が関係しています。ですから、まず自分の体質がど

ういうタイプかということを知ることが大切です。それぞれ

の糖尿病との向き合い方を一緒に考え、無理をし過ぎない指導を心がけています」。

地域の方々が健やかで安心して暮らし続けることができるよ

う、一つひとつ形にしていきた

いと語ってくださいました。



スタッフ一丸となって患者さんをサポート。